

2026 スキー鳥取発刊に寄せて



鳥取県スキー連盟
会長 内田 博長

世界的な異常気象の中、日本では局所的な集中豪雨による被害が全国で発生し被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。

12月に入ると雪が順調に降雪し、シーズンを通して安定した積雪が有り、全ての行事が順調に開催でき、昨年は雪不足で開催できなかった高松宮杯西日本クロスカントリー選手権大会が1月13日大山で初開催されたことは関係者の皆様の努力に感謝申し上げます。

西日本スノーボードアルペン選手権大会中高生の部に於いて優勝した旗人スノーボードクラブ松本樹N高校3年生が世界ジュニアスノーボードアルペン選手権の出場権を獲得、残念ながら怪我のため世界選手権は参加出来なかったことが悔やまれます。2025全日本ジュニアスキー選手権スノーボード競技6位と活躍されました。

アルペンでは伊澤想良米子東高校3年2月23日開催の2025全日本ジュニアスキー選手権アルペン競技SG10位 勢来怜志 末恒小6年JOCジュニアオリンピック2025全日本ジュニアスキー選手権K1SL10位と入賞者が続出しました。

教育本部では今年度からスキー教程が変更になり、受検種目も変わったが、スキー指導員4名、スキー準指導員1名、スノーボード準指導員1名、B級検定員1名、スキーパトロール1名が合格し数人ではあるが合格した皆様にはご活躍をお願いいたします。

スノーボードの指導員・準指導員検定及びA級・B級検定については、鳥取県内のA級検定員が少なく検定ができないと判断し、島根県スキー連盟に養成講習会及び検定会を委託して実施した。来年度も島根県スキー連盟に委に託することになるので、鳥取県スキー連盟のスノーボード指導員及びA級検定員、さらにはスノーボード技術員の養成が急務である。

2月1日、ホワイトリゾートで行われた西日本スキー技術選手権は、女子は渡邊夏香が11位、男子は坂本健吾の13位が最高位という結果だったが、北海道ルスツリゾートで行われた全日本スキー技術選手権には女子2名、男子4名が参加したが、予選落ちした。

スノーボード技術選手権では井上一輝が、西日本技選では12位、鹿沢スノーエリアで行われた全日本スノーボード技術選手権では予選落ちとなった。

ジュニア教室では、今年度から東部地区ジュニア教室が氷ノ山スキー場で開催された。

参加状況は、西部地区ではジュニア37名、保護者10名。東部地区ではジュニア9名、保護者1名であり、西部地区・東部地区ともより一層の参加者の増大が望まれる。

大山ホワイトリゾートが2026シーズンをもって日本交通が撤退し施設を大山町に寄付する報道がありました、我々スキーヤーにとって特に大切なスキー場で有り行事も沢山予定しており今後のスキー場をスキーヤーが喜ぶ運営を出来るよう接に望みます。